

読み聞かせを通して 親子を温かくつなぎたい

子羊文庫 代表

はやき かやこ
早木 香屋子 さん (本野町)

絵本やおはなしが好きになったきっかけは、子どもの頃、毎月買ってもらっていた福音館書店の「こどものとも」のほかに、寝る前に父が即興・創作で話してくれたおはなしの影響もある。「暗い寝床で、情景を想像しながら聞く話は、とても面白く楽しみにしていました」。そう語るのは、30年目を迎える読み聞かせボランティア「子羊文庫」代表の早木香屋子さん。

読み聞かせとの出会いは「わが子への読み聞かせ」で、2ヵ月の息子が足をばたばたさせて喜ぶので、うれしくて毎日読んでいたという。小さい子どもと親にとって絵本は、知識やしつけなどのためよりも、親子のコミュニケーションの1つ。絵本を通しておはなしの世界・時間を共有し、親子を温かくつないでくれる。

子羊文庫の主な活動は、おはなし会。『私たちが読む本の中から、大好きな絵本が見つかるかもしれない』との思いから、毎週土曜の午後3時から「幼児・小学生向けおはなし会」、第1木曜の午前11時から「0・1・2才児向けおはなし会」を市立図書館本館のおはなしコーナーで開催し



ている。「おうちの人の声による読み聞かせが一番だが、親子で図書館のおはなしの会にも参加して楽しんでもらいたい。本を借りに来たついでにぜひ、私たちのおはなし会も聞いてみて欲しい。季節や年齢に合った本を選んでいるので、新しく出会う本があるかもしれません」と語る。

おはなし会で行うペープサートやパネルシアターも子どもたちに大人気。会のみんなの手作りで、新作を手がけ、今では150ほどの作品がある。

子羊文庫が長年活動을続けてこられたのは、メンバーみんなの根底にある「本が好き」という思い。そして、本に対する学習意欲や練習を欠かさず研究して臨む姿勢などの素晴らしさがあることだ。さらに原動力になっているのは、読み聞かせのときに熱心に聞いてくれる子どもたちのキラキラした瞳に出会うこと。毎回、子どもたちから元気をもらって、読んだ自分たちも温かな気持ちになるという。

子羊文庫30周年記念「大人のためのおはなし会」を、文化の日の11月3日(月)午後2時から八代ホワイトパレスで開催する(中学生以上が対象)。「自分で読むのと聞くのは違います。ぜひ体験して欲しい」と早木さん。入場は無料だが、申込みが必要。

連絡先：早木 ☎ 34-5761



▲子羊文庫の皆さん。
子どもと本が好きなメンバー募集中



2014.OCTOBER No.118

- 3 市立博物館 秋季特別展覧会
もののふの美と心
- 4 特集 フツ化物洗口
歯も元気になるって歯ッピー
- 8 やつしろ全国花火競技大会
- 10 高血圧を予防しましょう
- 11 10月1日から定期予防接種に
- 12 市長への手紙
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
キッズチャレンジ2014
郷里を舞台に映画を製作
トップアスリート育成事業
「せせらぎ」入館者300万人達成
マージャンで健康・仲間・生きがいづくり
100歳おめでとうございます
他9件
- 31 伝言板
- 32 せんちょうい草の里まつり
東陽しょうが祭り

広報やつしろは、市ホームページ
でもご覧いただけます。

トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ